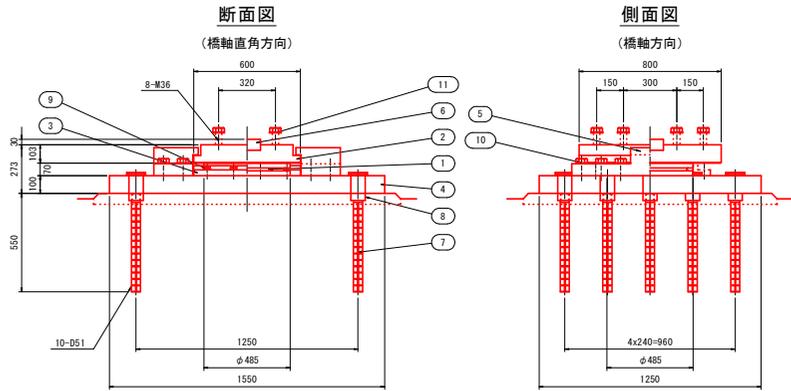
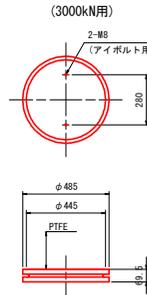


支承詳細図(その2) S=1:15

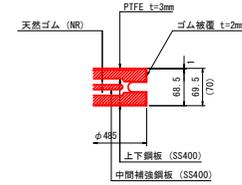
(P1) 可動ゴム支承装置 (弾性荷重支持板)



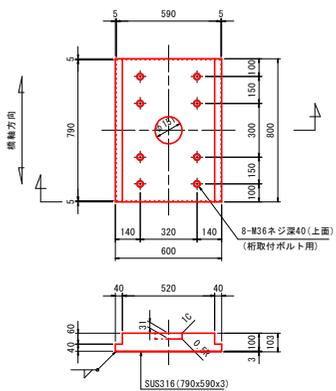
① 弾性荷重支持板



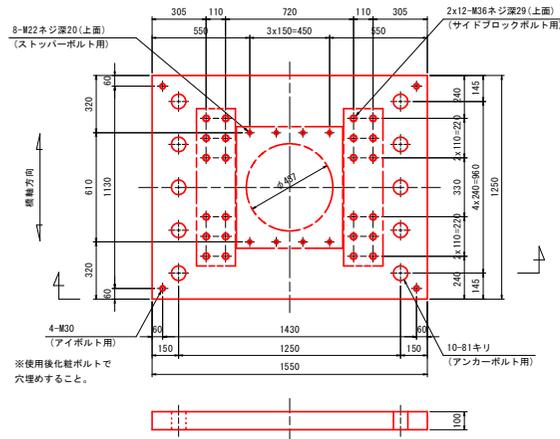
荷重支持板詳細図 S=1:5



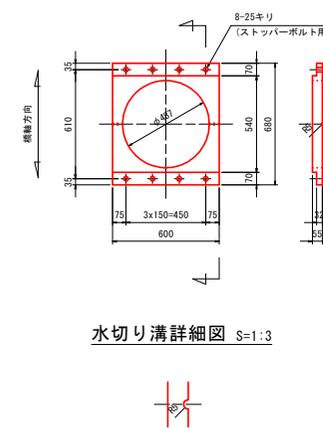
② スライディングプレート



④ ベースプレート



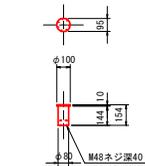
③ ストッパー



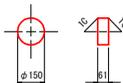
水切り溝詳細図 S=1:3



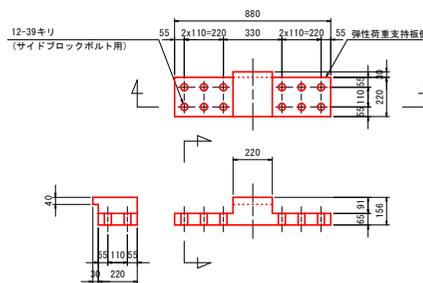
⑧ 下カップラー S=1:20



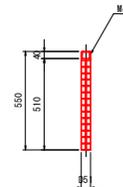
⑥ せん断キーン 上 用



⑤ サイドブロック



⑦ アンカーボルト



設計条件

反力 (kN)		P1	
最大反力	Rmax	2626	
最大反力 (回転照査用)	Rmax2	2064	
死荷重反力	RD	1456	
照査荷重	RIL	-	
最大水平力	橋軸方向	RHeq1	299
	橋軸直角方向	RHeq2	1733
	サイドブロック	RHeq3	1733
上向きの地震力	Ru	-1280	
変位量 (mm)			
照査荷重時の変位量	δdL	-	
回転変位量	δr	0.658	
水平変位量	常時・橋軸方向	ΔL1	34
	地震時・橋軸方向	ΔLe1	145
	地震時・橋軸直角方向	ΔLe2	-
性能			
ゴムの種類及び呼び	材料・G	NR-610	
圧縮ばね定数 (kN/mm)	Kv	1410	
試験変位量	せん断ひずみ (%)	γS	-
	変位量 (mm)	UB	-

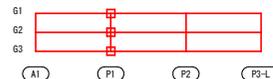
材料表

部番	部品名称	材質	個数	重量 (kg)	備考
1	弾性荷重支持板	NR, SS400, PTFE	1	68.5	NR (天然ゴム)
2	スライディングプレート	SM490A, SUS316	1	351.6	
3	ストッパー	SM490A or SCM480N	1	79.6	
4	ベースプレート	SM490A	1	1474.3	
5	サイドブロック	SM490A or SCM480N	2	256.2	
6	せん断キーン	SM490A or SSC50N	1	8.5	上 用
7	アンカーボルト	SD345	10	87.5	
8	下カップラー	S45GN	10	55.4	
9	ストッパーボルト、ワッシャー	強度区分 8.8	8	2.1	
10	サイドブロックボルト、ワッシャー	強度区分 8.8	24	30.9	
11	桁取付ボルト、ワッシャー	強度区分 8.8	8	10.3	
12	ゴムキャップ	EPDM	10	0.7	
13	アイボルト	SS400	-	-	M30
14	化粧ボルト、ワッシャー	強度区分 4.8	4	4	M30 x 40 (締付)
合計				2425.6	(kg)

- ※1 道路橋支保架標準制。
- ※2 部番を○で囲んだ部品は溶融亜鉛めっきとする。
JIS H 8641 HDZ55、ボルト類はHDZ25とする。
- ※3 ゴム支承の重量は施工上の参考重量を示す。
- ※4 製作・施工に必要なアイボルト穴は適宜設けること。
- ※5 必要なアイボルト穴は協議して決定すること。
- ※6 アイボルト穴は用済み後穴埋めすること。
- ※7 桁取付ボルト重量はL=100mmとして参考に計上する。
- ※8 スライディングプレートのSUS溶接部は高濃度亜鉛めっき塗装とする。

- ⑨ ストッパーボルト、ワッシャー M22 x 55 強度区分 8.8
- ⑩ サイドブロックボルト、ワッシャー M36 x 100 強度区分 8.8
- ⑪ 桁取付ボルト、ワッシャー M36 x L 強度区分 8.8

位置図

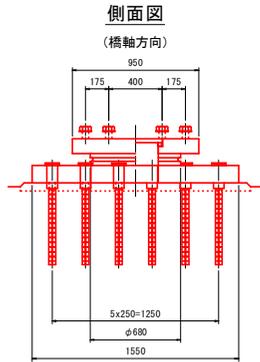
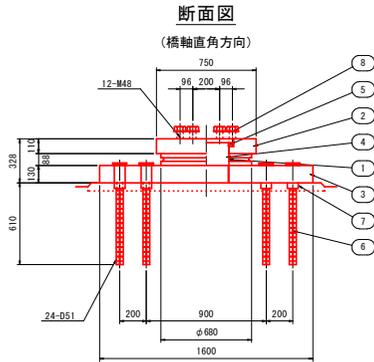


実施設計図面

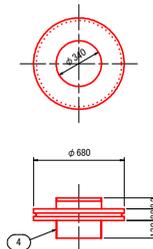
工事名	R3番土 石井引田線 (六条大橋) 上線・下六條 橋梁補修工事(S) (旧い手補修型)
路線名等	(主) 石井引田線
工事箇所	板野郡上板町下六條 (六条大橋) (第5分節)
図面名	支承詳細図 (その2)
縮尺	1:15 図面番号 3 / 20
会社名	
事業者名	徳島県東部県土整備局<吉野川>

支承詳細図(その3) S=1:20

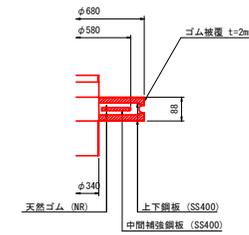
(P2) 固定ゴム支承装置 (弾性荷重支持板)



① 弾性荷重支持板



荷重支持板詳細図 S=1:10



設計条件

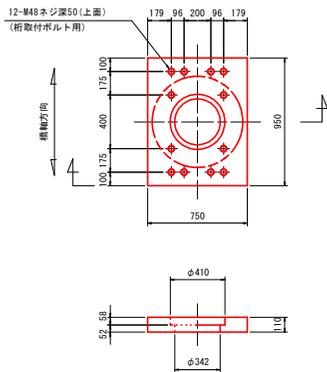
反力 (kN)		P2	
最大反力	Rmax	2623	
最大反力 (回転照査用)	Rmax2	2065	
死荷重反力	RD	1454	
照査荷重	RIL	-	
最大水平力	橋軸方向	RHeq1	5373
	橋軸直角方向	RHeq2	2777
上向き地震力	Ru	-2861	
変位量 (mm)			
照査荷重時の変位量	δcL	-	
回転変位量	δr	0.967	
水平変位量	常時・橋軸方向	$\Delta L1$	-
	地震時・橋軸方向	$\Delta Le1$	-
	地震時・橋軸直角方向	$\Delta Le2$	-
性能			
ゴムの種類及び呼び	材料-G	NR-G10	
圧縮ばね定数 (kN/mm)	Kv	1250	
試験変位量	せん断ひずみ (%)	γS	-
	変位量 (mm)	UB	-

材料表

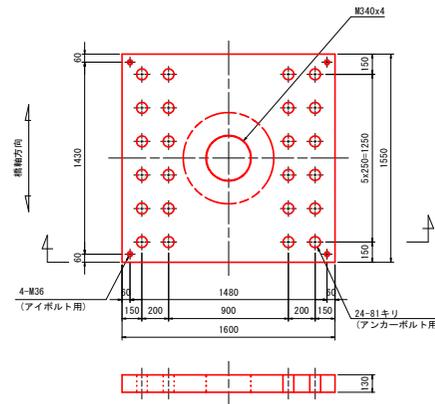
(1組当り)

部番	部品名称	材質	個数	重量 (kg)	備考
1	弾性荷重支持板	NR SS400	1	122.1	
②	上 咨	SM490A	1	511.0	
③	ベースプレート	SM490A	1	2311.9	
④	シンボウ	S45CN	1	213.8	
⑤	リングナット	S45CN	1	5.6	
6	アンカーボルト	SD345	24	232.8	
⑦	下カップラー	S45CN	24	161.3	
⑧	桁取付ボルト、ワッシャー	強度区分 8.8	12	32.0	
9	ゴムキャップ	EPDM	24	1.6	
10	アイボルト	SS400	-	-	M36
⑪	化粧ボルト、ワッシャー	強度区分 4.8	4	-	M36×50 (細径)
合計				3592.1	(kg)

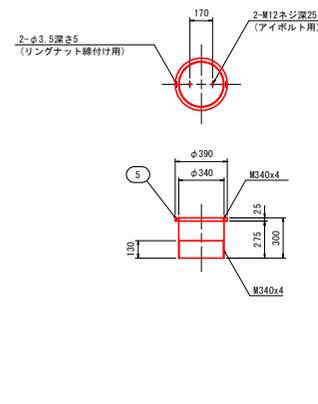
② 上 咨



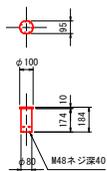
③ ベースプレート



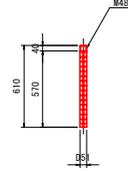
④ シンボウ



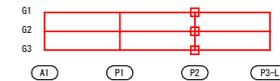
⑦ 下カップラー



⑧ アンカーボルト



位置図



- ※1 道路橋支承装置標準。
- ※2 部番を○で囲んだ部品は溶融亜鉛めっきとする。
- ※3 JIS H 8641 HDZ55、ボルト類はHDZ35とする。
- ※4 ゴム支承の重量は施工上の参考重量を示す。
- ※5 製作・施工に必要なアイボルトは適宜設けること。
- ※6 必要なアイボルト本数は協議して決定すること。
- ※7 アイボルトは用済み後穴埋めのこと。
- ※8 桁取付ボルト重量はL=100mmとして参考に計上する。
- ※9 シンボウ、リングナットはめっき後加工のこと。

⑧ 桁取付ボルト、ワッシャー M48 x L 強度区分 8.8

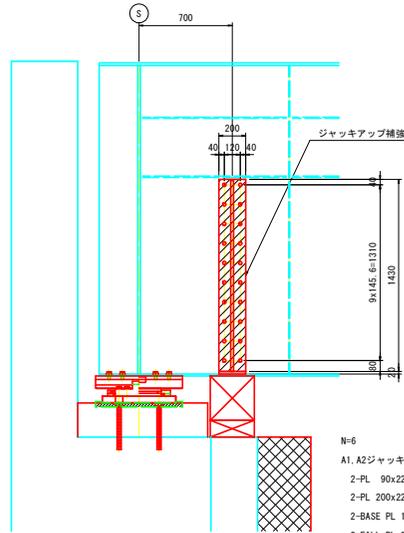
実施設計図面

工事名	R3号土 石井引田線(六条大橋) 上級・下六橋 橋梁補修工事(5) (旧い手橋復旧)
路線名等	(主)石井引田線
工事箇所	板野郡上板町下六橋(六条大橋) (第5分劃)
図面名	支承詳細図(その3)
縮尺	1:20 図面番号 4/20
会社名	
事業者名	徳島県東部県土整備局<吉野川>

支取替詳細図(その1) S=1:30

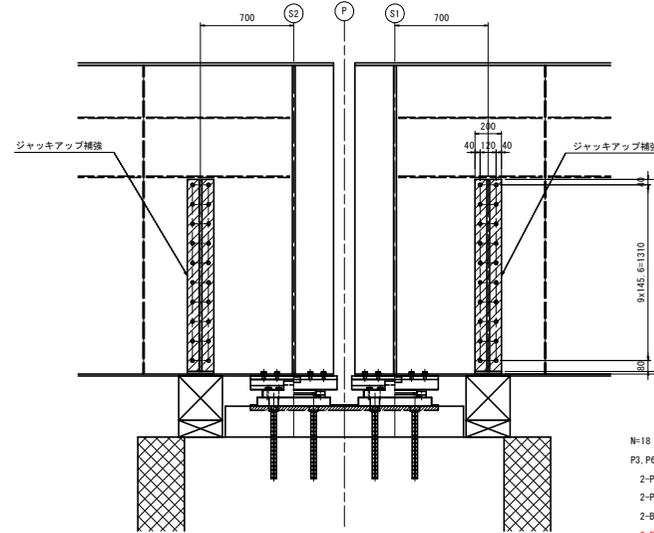
側面図はG1, G2, G3, 全て共通とする

A1 側面図 S=1:20



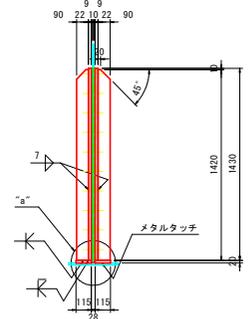
- N=6
 A1, A2ジャッキアップ補強(1箇所当たり)
 2-PL 90x22x1420
 2-PL 200x22x1430
 2-BASE PL 115x20x200
 2-FILL PL 200x9x1430 (SS400)
 20-TCB M22x110 (S10T)

P3, P6, P9 側面図 S=1:20

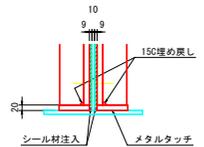


- N=18
 P3, P6, P9ジャッキアップ補強(1箇所当たり)
 2-PL 90x22x1420
 2-PL 200x22x1430
 2-BASE PL 115x20x200
 2-FILL PL 200x9x1430 (SS400)
 20-TCB M22x110 (S10T)

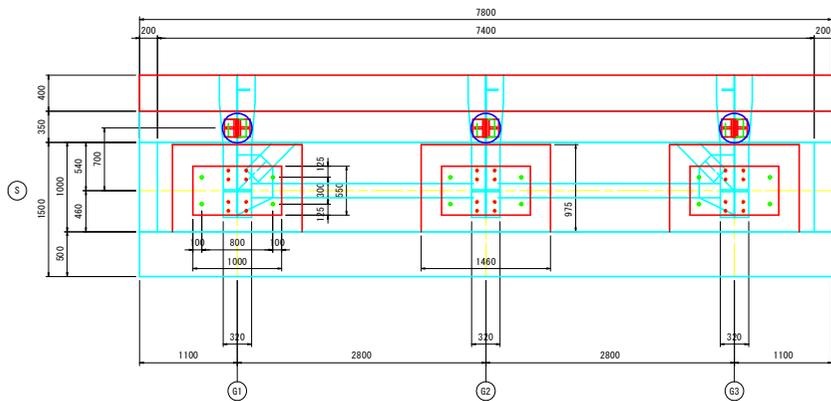
断面図 S=1:20



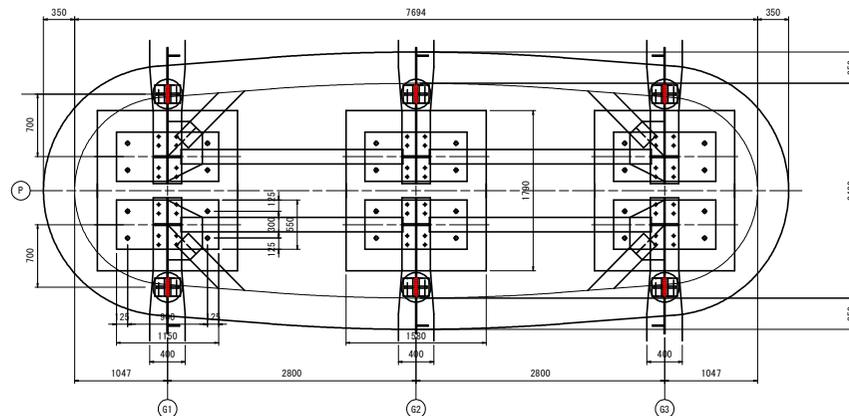
"a"部詳細 S=1:10



A1 平面図



P3, P6, P9 平面図



注記

- 特記なき材質は、全て SM400A とする。
- ◆印は、高力ボルト TCB M22 (S10T) を示す。
- 印のボルトについては、補強詳細図にて計上する。
- 特記なき高力ボルトの孔明けは、新設部材φ26.5、既設部材φ24.5とする。
- 部材はすべて現地計測のうえ製作のこと。セットボルトが干渉する場合は適宜調整すること。

実施設計図面

工事名	R3富士 石井引田線(六条大橋) 上線・下六條 橋梁補修工事(S) (旧い手橋換装)
路線名等	(主)石井引田線
工事箇所	板野郡上板町下六條(六条大橋) (第5分節)
図面名	支取替詳細図(その1)
縮尺	1:30 図面番号 5/20
会社名	
事業者名	徳島県東部県土整備局<吉野川>

支承取替詳細図(その4) S=1:20

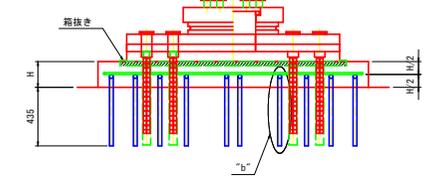
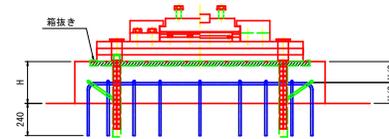
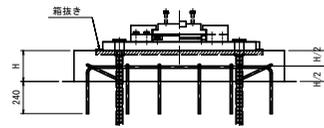
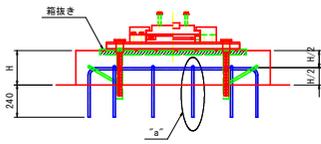
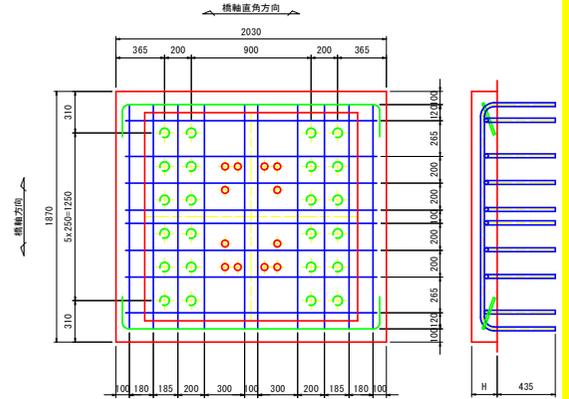
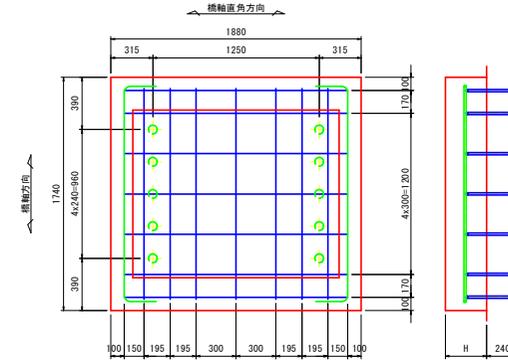
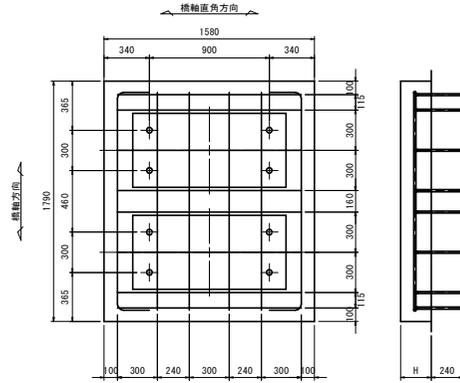
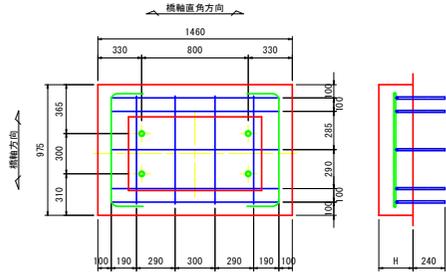
支承台座詳細図

A1, A2 橋台 (N=6)

P3, P6, P9 橋脚 (N=9)

P1, P4, P8, P11 橋脚 (N=12)

P2, P5, P7, P10 橋脚 (N=12)



- N=6
- 5 - D16 x 1940 (SD345)
 - 4 - D16 x 1520 (SD345)
 - 2 - D16 x 1280 (SD345)

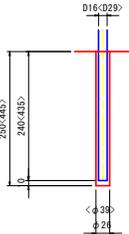
- N=9
- 8 - D16 x 2040 (SD345)
 - 4 - D16 x 2310 (SD345)
 - 2 - D16 x 2070 (SD345)

- N=12
- 7 - D16 x 2420 (SD345)
 - 7 - D16 x 2340 (SD345)
 - 2 - D16 x 2050 (SD345)

- N=12
- 8 - D29 x 2850 (SD345)
 - 10 - D29 x 2690 (SD345)
 - 2 - D16 x 2380 (SD345)

"a" ("b") 部詳細 S=1:5

※<内の数値はP2, P5, P7, P10を示す。



宍座高さ H [mm]

A1			A2		
G1	G2	G3	G1	G2	G3
255	255	255	255	255	255

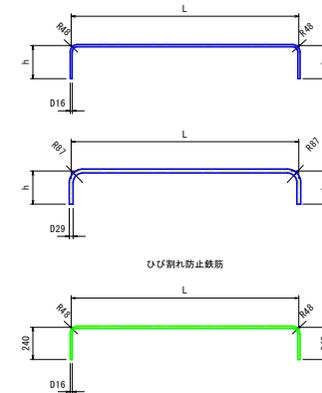
P3			P6			P9		
G1	G2	G3	G1	G2	G3	G1	G2	G3
230	230	230	230	230	230	230	230	230

P1			P4			P8			P11		
G1	G2	G3									
311	312	311	311	312	311	311	312	311	311	312	311

P2			P5			P7			P10		
G1	G2	G3									
192	193	192	192	193	192	192	193	192	192	193	192

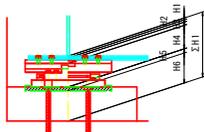
台座鉄筋寸法表

	h [mm]		L [mm]		
	橋軸	橋直	橋軸	橋直	ひび割れ
A1, A2	376	360	807	1260	839
P3, P6, P9	363	347	1622	1380	1622
P1, P4, P8, P11	404	388	1572	1680	1604
P2, P5, P7, P10	546	517	1670	1888	1933



鉄筋加工寸法表			
$\theta \leq 90^\circ$ $R = 3\phi$			
$\Delta L = 2L - a$			
径	$\theta = 90^\circ$		
	R	a	ΔL
D16	48	75	21
D29	87	137	37

構造高図



構造高表

		A1, A2	P3, P6, P9	P1, P4, P8, P11	P2, P5, P7, P10
		G1, G2, G3	G1, G2, G3	G1, G2, G3	G1, G2, G3
下フランジ厚	H1	0.015	0.015	0.028	0.028
カバプレート厚	H2	-	-	0.028	0.028
ソールプレート厚	H3	0.026	0.026	0.021	0.021
宍高	H4	0.174	0.199	0.273	0.328
集約縮毛ルタル厚	H5	0.000	0.000	0.000	0.000
台座コンクリート高	H6	0.255	0.230	0.311	0.192
桁下余裕量	ΣH1	0.470	0.470	0.670	0.670

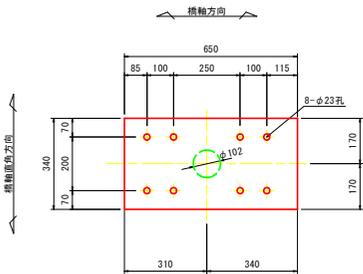
実施設計図面

工事名	R3富士 石井引田線(六条大橋) 上線・下六條橋架替工事(5) (旧I手橋架替)
路線名等	(主)石井引田線
工事箇所	板野郡上板町下六條(六条大橋) (第5分節)
図面名	支承取替詳細図(その4)
縮尺	1:20 図面番号 8/20
会社名	
事業者名	徳島県東部県土整備局<吉野川>

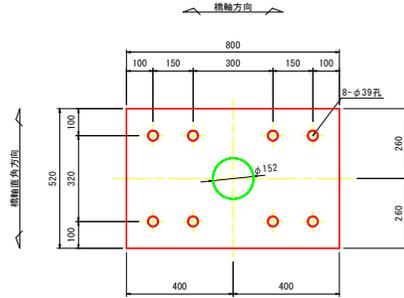
支承取替詳細図(その5) S=1:20

ソールプレート詳細図 S=1:10

A1, A2 橋台
P3, P6, P9 橋脚

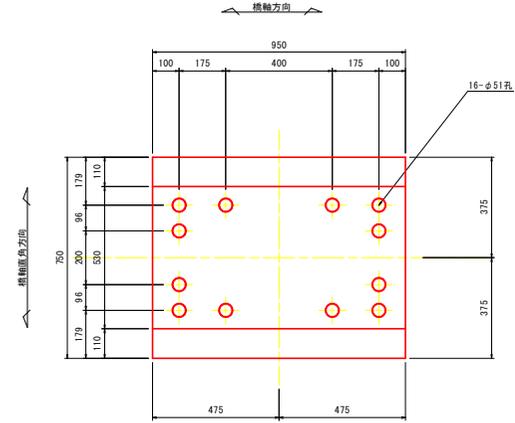


P1, P4, P8, P11 橋脚

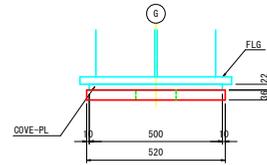
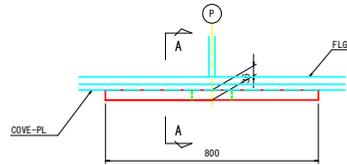
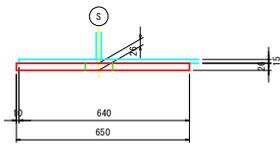


P2, P5, P7, P10 橋脚

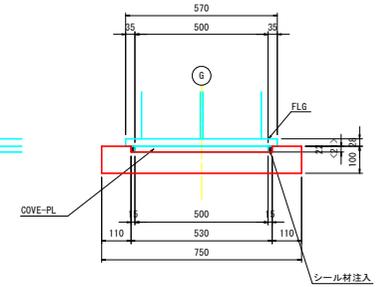
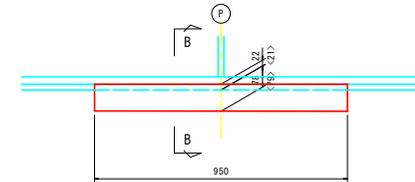
○内は62桁の種を示す。



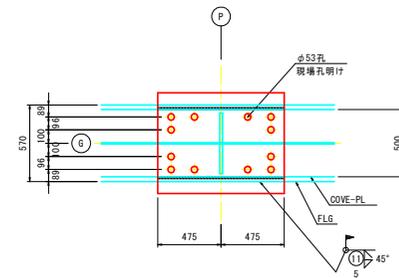
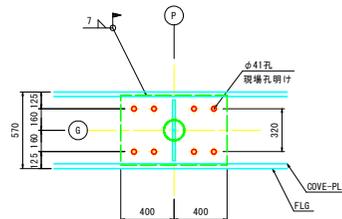
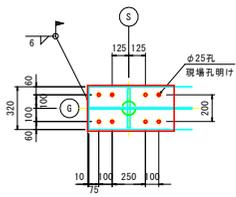
A - A



B - B



主桁下フランジ面



N=6 (A1, A2橋台)
1 - SOLE PL 340 x 28 x 650 (SM490B)

N=18 (P3, P6, P9橋脚)
1 - SOLE PL 340 x 28 x 650 (SM490B)

N=12
1 - SOLE PL 520 x 38 x 800 (SM490B)

N=12
1 - SOLE PL 750 x 102 x 950 (SM490C)

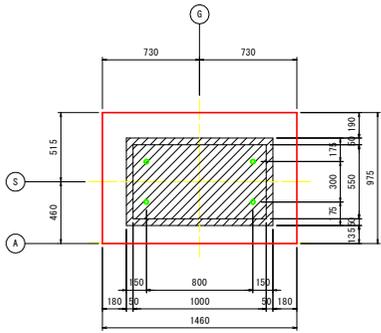
実施設計図面

工事名	R3富士 石井引田線(六条大橋) 上級・下六條 橋梁補修工事(5) (図1)手続後記)
路線名等	(主)石井引田線
工事箇所	板野郡上板町下六條(六条大橋) (第5分節)
図面名	支承取替詳細図(その5)
縮尺	1:20 図面番号 9 / 20
会社名	
事業者名	徳島県東部県土整備局<吉野川>

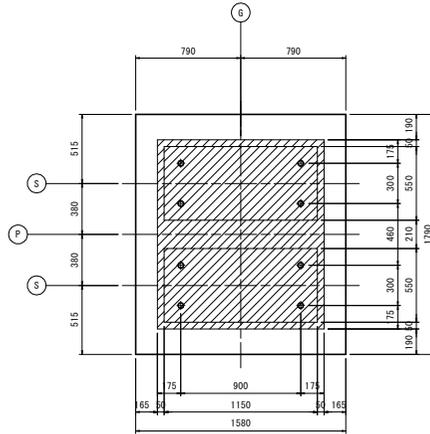
支承取替詳細図(その6) S=1:20

支承モルタル打設要領図

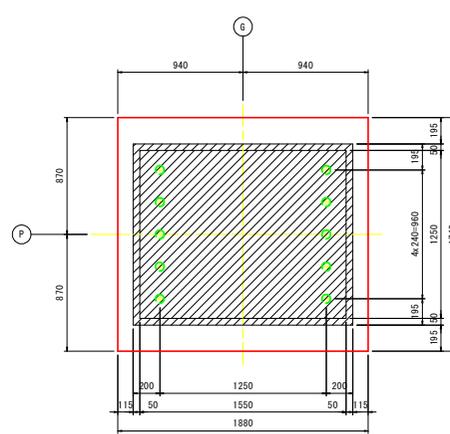
A1, A2 橋台
(N=6)



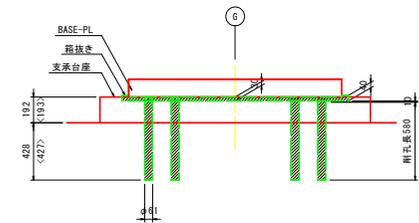
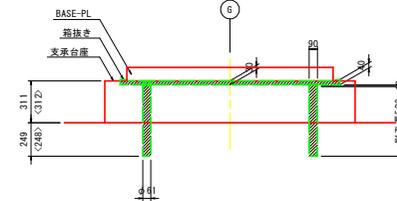
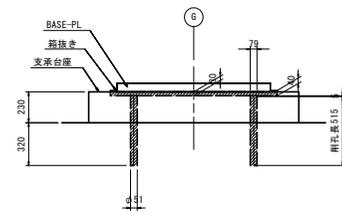
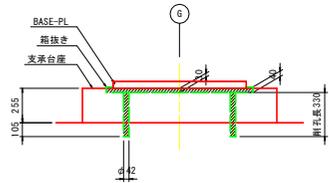
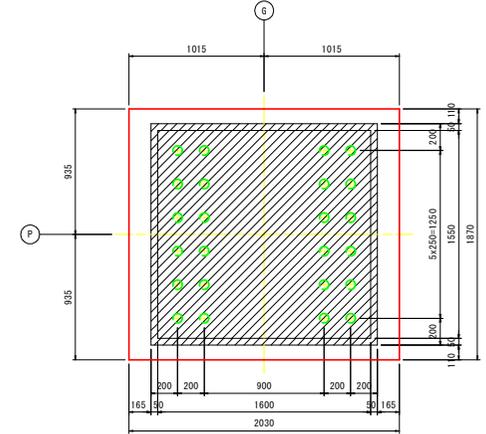
P3, P6, P9 橋脚
(N=9)



P1, P4, P8, P11 橋脚
(N=12)
< >内はG2を示す。

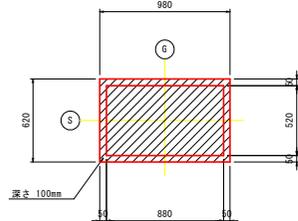


P2, P5, P7, P10 橋脚
(N=12)
< >内はG2を示す。

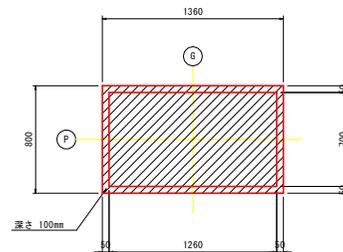


下部エコンクリートはつり要領図

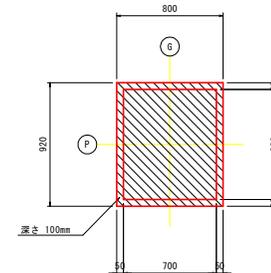
A1, A2 橋台
< P3, P6, P9 橋脚 >
(N=6<18>)



P1, P4, P8, P11 橋脚
(N=12)



P2, P5, P7, P10 橋脚
(N=12)



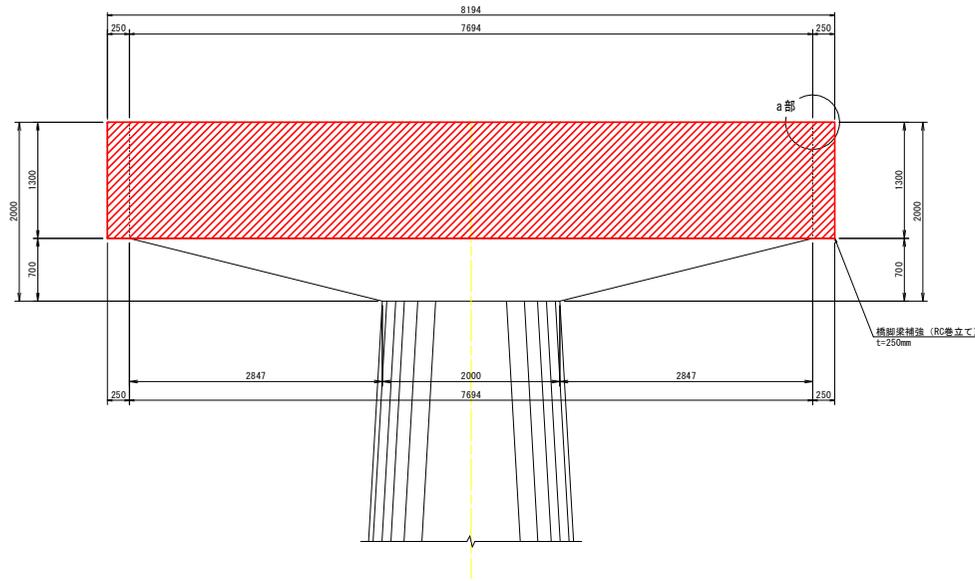
実施設計図面

工事名	R3富士 石井引田線(六条大橋) 上線・下六橋 橋梁補修工事(S) (国イ手続後発)
路線名等	(主)石井引田線
工事箇所	板野郡上板町下六橋(六条大橋) (第5分劃)
図面名	支承取替詳細図(その6)
縮尺	1:20 図面番号 10/20
会社名	
事業者名	徳島県東部県土整備局<吉野川>

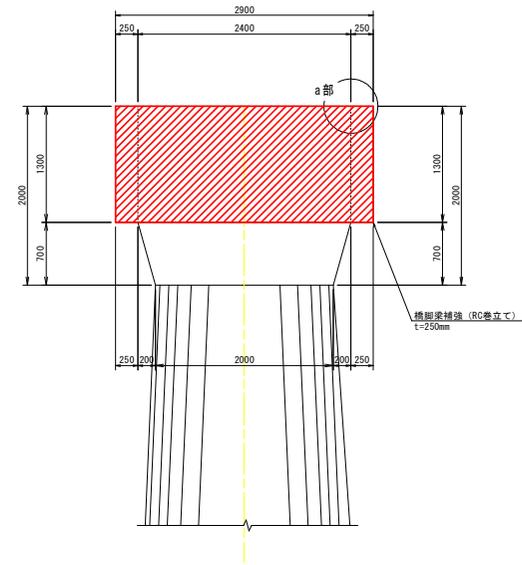
橋脚梁補強構造図(その1) S=1:30

(中間可動支承：P1橋脚)

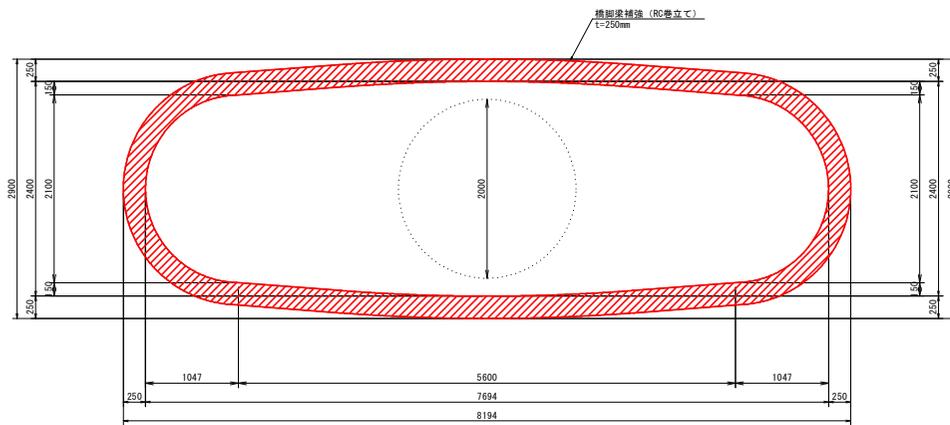
正面図



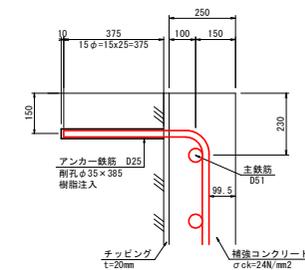
側面図



平面図



a部詳細図 S=1:10



※補強鉄筋の削孔位置は既設橋脚の鉄筋を鉄筋探査により確認し、
既設鉄筋を避けて削孔すること。
※コンクリート打設後、十分な養生を行うこと。
※削孔径は、鉄筋径+10mm程度とする。
※現地寸法実測の上、加工筋形状を確定すること。

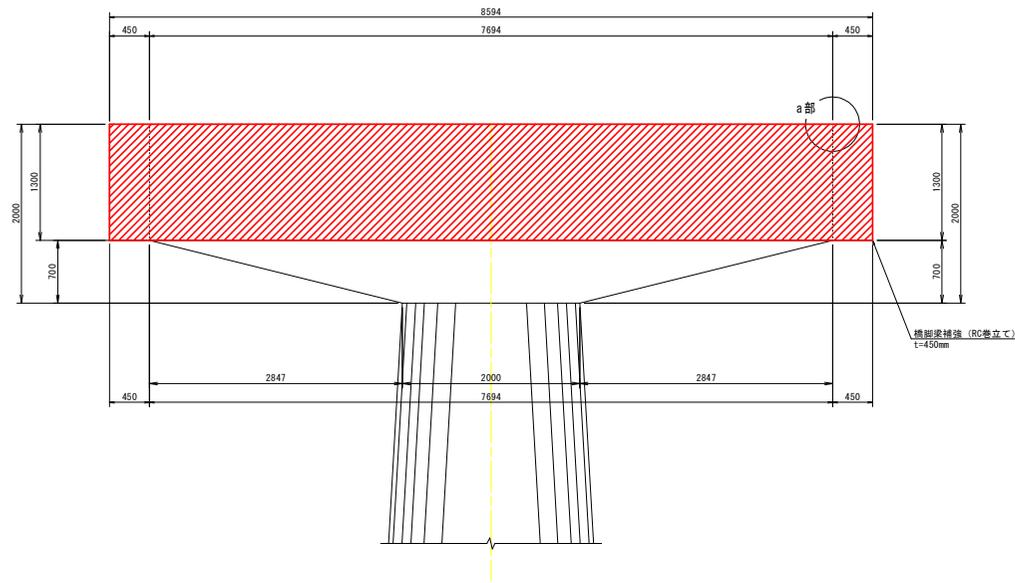
実施設計図面

工事名	R3富士 石井引田線(六条大橋) 上線・下六條 橋梁補修工事(S) (削り手補強型)
路線名等	(主)石井引田線
工事箇所	板野郡上板町下六條(六条大橋) (第5分劃)
図面名	橋脚梁補強構造図(その1)
縮尺	1:30 図面番号 11/20
会社名	
事業者名	徳島県東部県土整備局<吉野川>

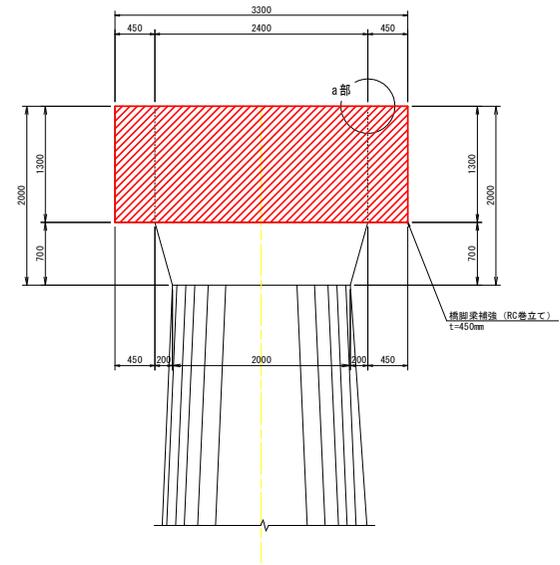
橋脚梁補強構造図 (その2) S=1:30

(中間固定支承：P2橋脚)

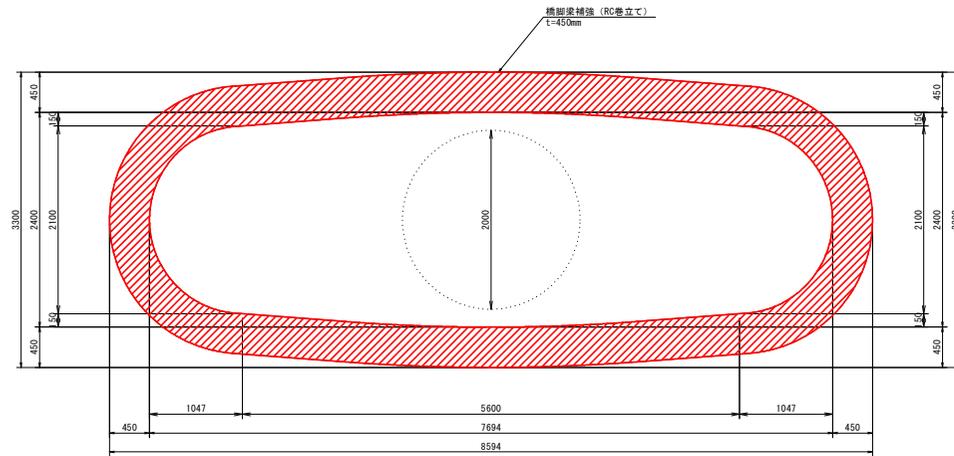
正面図



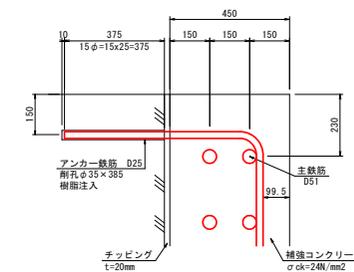
側面図



平面図



a部詳細図 S=1:10



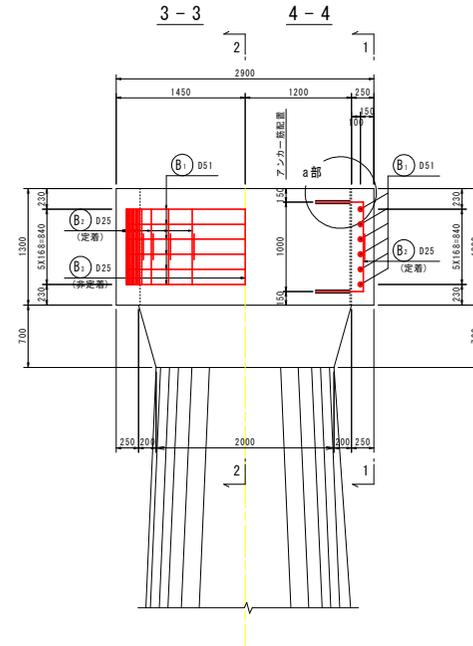
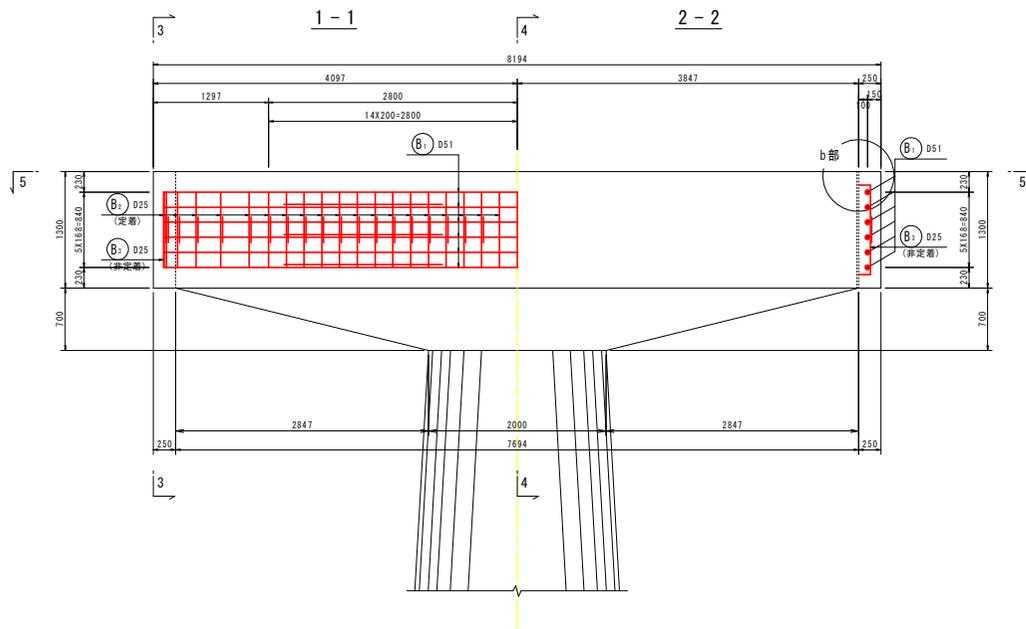
実施設計図面

工事名	R3号土 石井引田線(六条大橋) 上板・下六條 橋梁補修工事(S) (旧い手築復旧)
路線名等	(主)石井引田線
工事箇所	板野郡上板町下六條(六条大橋) (第5分劃)
図面名	橋脚梁補強構造図 (その2)
縮尺	1:30 図面番号 12 / 20
会社名	
事業者名	徳島県東部県土整備局<吉野川>

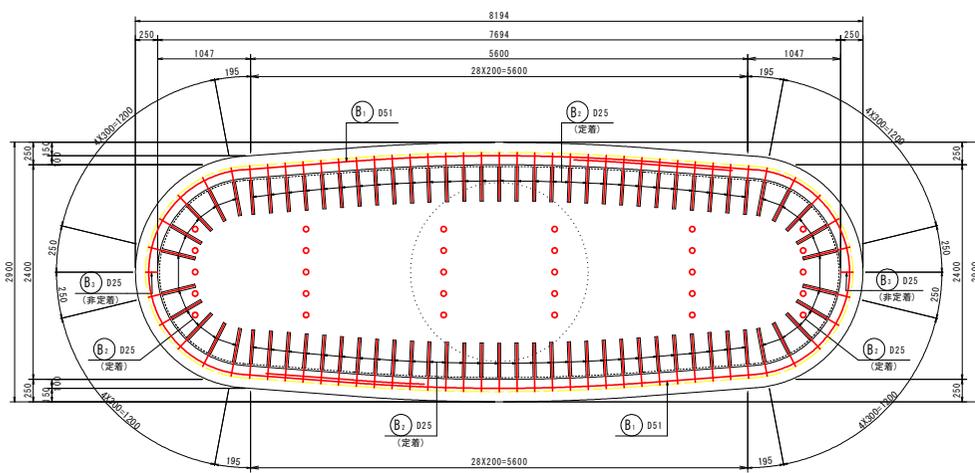
※補強鉄筋の削孔位置は既設橋脚の鉄筋を鉄筋探査により確認し、
既設鉄筋を避けて削孔すること。
※コンクリート打設後、十分な養生を行うこと。
※削孔径は、鉄筋径+10mm程度とする。
※現地寸法実測の上、加工筋形状を確定すること。

橋脚梁補強配筋図(その1) S=1:30

(中間可動支承:P1橋脚)

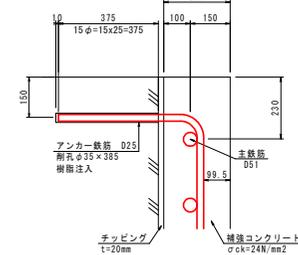


5-5

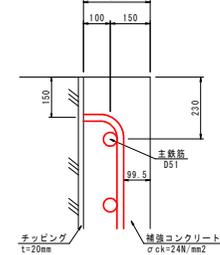


※アンカー筋の配置および削孔位置は、既設橋脚の表面位置での寸法を示す。

a部詳細図 S=1:10 (定着)



b部詳細図 S=1:10 (非定着)



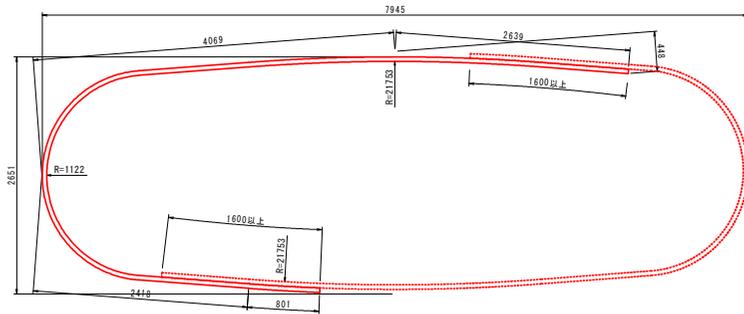
※補強鉄筋の削孔位置は既設橋脚の鉄筋を鉄筋検査により確認し、既設鉄筋を避けて削孔すること。
 ※コンクリート打設後、十分な養生を行うこと。
 ※削孔径は、鉄筋径+10mm程度とする。
 ※現地寸法実測の上、加工筋形状を確定すること。

実施設計図面

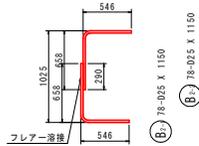
工事名	R3富士 石井引田線(六条大橋) 上級・下六條 橋梁補修工事(S) (削孔手続後)
路線名等	(主)石井引田線
工事箇所	板野郡上板町下六條(六条大橋) (第5分劃)
図面名	橋脚梁補強配筋図(その1)
縮尺	1:30 図面番号 13/20
会社名	
事業者名	徳島県東部県土整備局<吉野川>

橋脚梁補強配筋図(その2) S=1:30

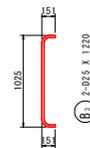
(中間可動支承:P1橋脚)



ⓑ 12-051 X 11000



ⓑ 78-025 X 1150

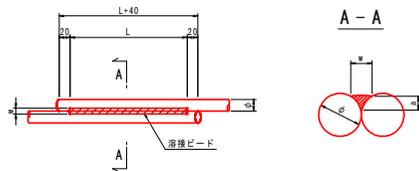


ⓑ 78-025 X 1120

鉄筋質量表 (SD345)

種別	径	長さ	本数	単位質量	一本当り質量	質量	摘要	
B ₁	D51		11000	12	15.9	174.90	2099	C
B ₂₋₁	D25		1150	78	3.98	4.58	357	L
B ₂₋₂	D25		1150	78	3.98	4.58	357	L
B ₃	D25		1220	2	3.98	4.86	10	L
2823								
合計							D51	2099 kg
							D25	724 kg
総質量								2823 kg

フレアー溶接詳細図



寸法表

φ	w	a	L	L+40
D16	8.0	3.2	160	200
D19	9.5	4.4	190	230
D22	11.0	5.6	220	260
D25	12.5	5.8	250	290
D29	14.5	7.3	290	330

w: 溶接ビードの幅
 $w \geq 1/2 \times \phi$
 a: のど厚
 $a \geq 0.39 \times \phi - 3$ (10mm < $\phi \leq 22$ mm)
 $a \geq 0.39 \times \phi - 4$ ($\phi > 22$ mm)
 L: 溶接長
 $L \geq 10 \times \phi$
 φ: 鉄筋径 D (呼び径)

注) フレアー溶接の施工管理については、土木学会における「鉄筋定着-継手指針(2007年版)」によるものとする。

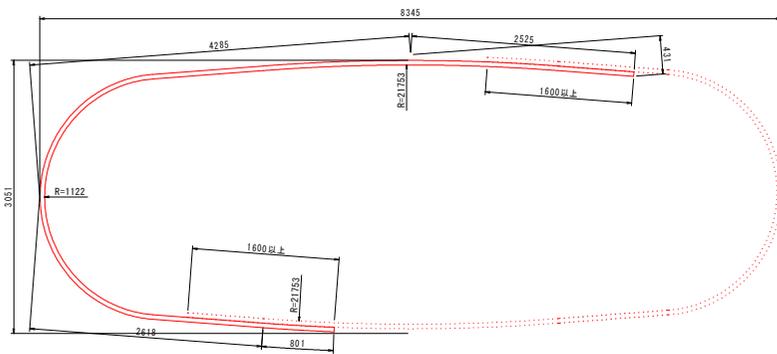
実施設計図面

工事名	R3号土 石井引田線(六条大橋) 上線・下六條 橋梁補修工事(S) (指し手確保型)
路線名等	(主)石井引田線
工事箇所	板野郡上板町下六條(六条大橋) (第5分劃)
図面名	橋脚梁補強配筋図(その2)
縮尺	1:30 図面番号 14/20
会社名	
事業者名	徳島県東部県土整備局<吉野川>

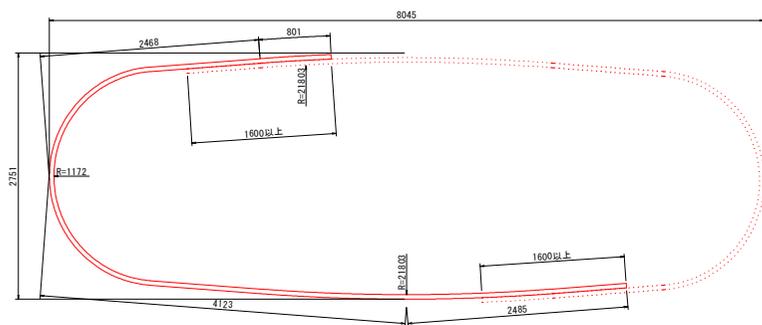
※補強鉄筋の削孔位置は既設橋脚の鉄筋を鉄筋探査により確認し、既設鉄筋を避けて削孔すること。
 ※コンクリート打設後、十分な養生を行うこと。
 ※削孔径は、鉄筋径+10mm程度とする。
 ※現地寸法実測の上、加工筋形状を確定すること。

橋脚梁補強配筋図(その4) S=1:30

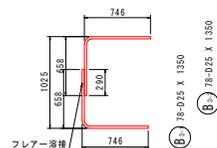
(中間固定支承:P2橋脚)



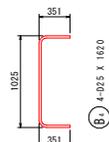
ⓑ 12-D51 X 11500



ⓑ 12-D51 X 11000



ⓑ 7φ-D25 X 1350

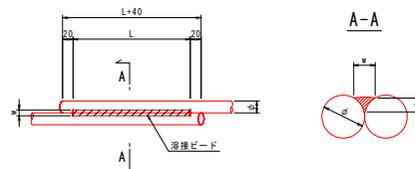


ⓑ 4φ-D25 X 1620

鉄筋質量表 (SD345)

種別	径	長さ	本数	単位質量	一本当り質量	質量	摘要
B ₁	D51	11500	12	15.9	182.85	2194	C
B ₂	D51	11000	12	15.9	174.90	2099	
B ₃₋₁	D25	1350	78	3.98	5.37	419	L
B ₃₋₂	D25	1350	78	3.98	5.37	419	
B ₄	D25	1620	4	3.98	6.45	26	L
						5157	
合計 D51				4293 kg			
				864 kg			
総質量				5157 kg			

フレアー溶接詳細図



寸法表

φ	w	a	L	L+40
D16	8.0	3.2	160	200
D19	9.5	4.4	190	230
D22	11.0	5.6	220	260
D25	12.5	5.8	250	290
D29	14.5	7.3	290	330

w: 溶接ビードの幅

$w \geq 1/2 \times \phi$

a: のど厚

$a \geq 0.39 \times \phi - 3$ (10mm < φ ≤ 22mm)

$a \geq 0.39 \times \phi - 4$ (φ > 22mm)

L: 溶接長

$L \geq 10 \times \phi$

φ: 鉄筋径 D (呼び径)

注) フレアー溶接の施工管理については、土木学会における「鉄筋定着-継手指針(2007年版)」によるものとする。

実施設計図面

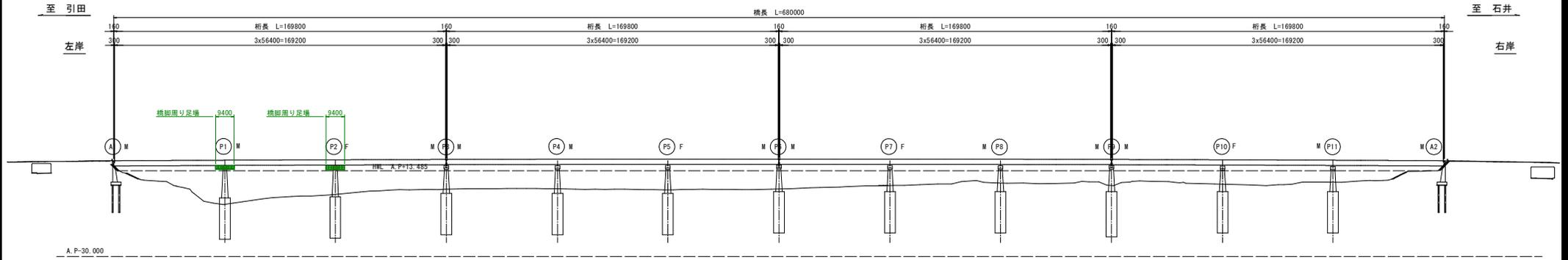
工事名	R3番土 石井引田線(六条大橋) 上級・下六條 橋梁補修工事(S) (旧い手続後記)
路線名等	(主) 石井引田線
工事箇所	板野郡上板町下六條(六条大橋) (第5分劃)
図面名	橋脚梁補強配筋図(その4)
縮尺	1:30 図面番号 16/20
会社名	
事業者名	徳島県東部県土整備局<吉野川>

※補強鉄筋の削孔位置は既設橋脚の鉄筋を鉄筋検査により確認し、既設鉄筋を避けて削孔すること。
 ※コンクリート打設後、十分な養生を行うこと。
 ※削孔径は、鉄筋径+10mm程度とする。
 ※現地寸法実測の上、加工筋形状を確定すること。

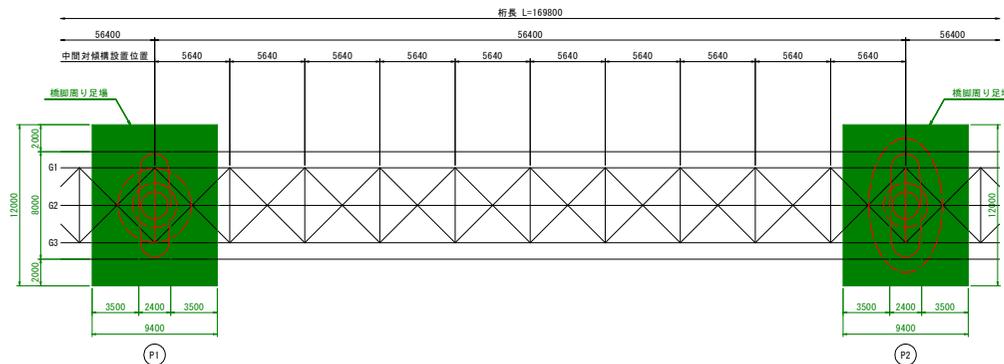
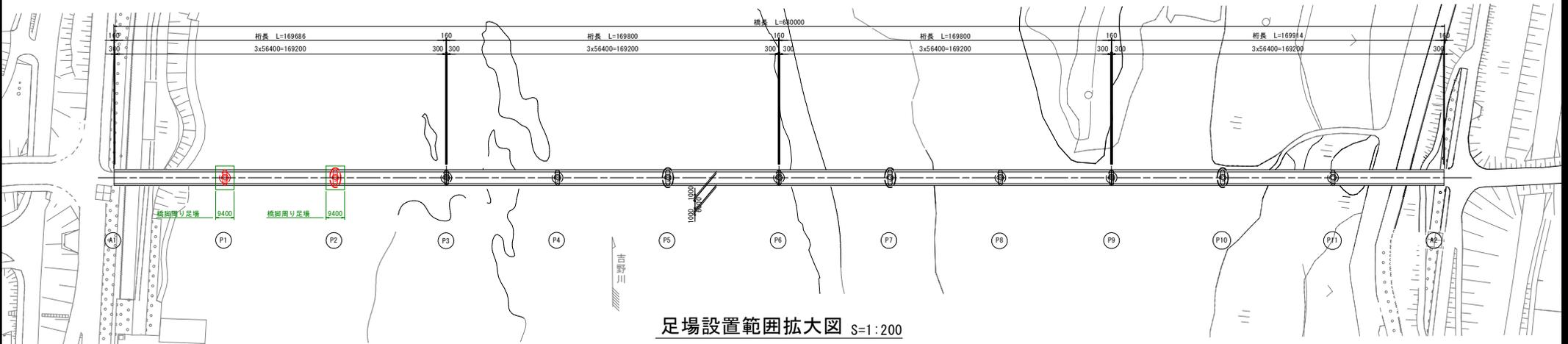
施工計画図(その1) S=1:1000

足場設置計画図(平面図、側面図)

側面図



平面図



注) 上部工側面足場は、G1外側張出部およびG1-G2間部の足場工は2段足場とする。

実施設計図面

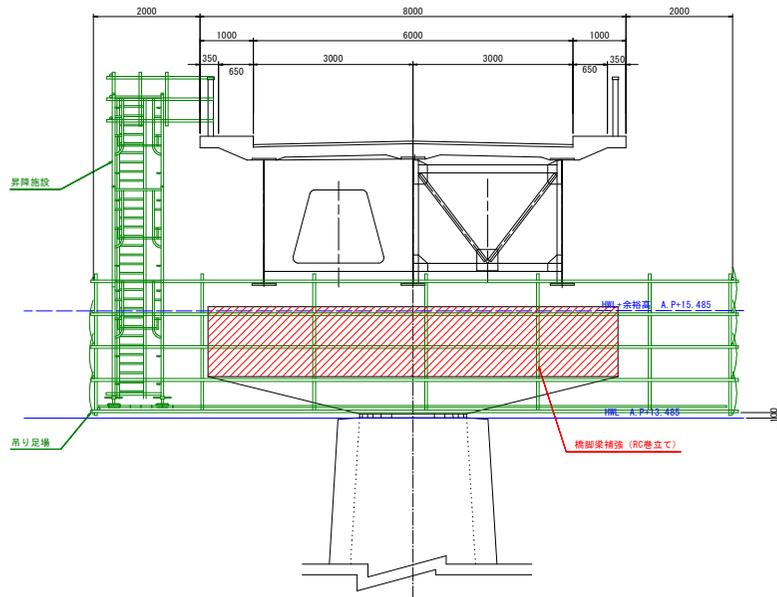
工事名	R3吉土 石井引田線(六条大橋) 上保・下六條 橋梁補修工事(S) (図1)手続決定)
路線名等	(主)石井引田線
工事箇所	板野郡上板町下六條(六条大橋) (第5分節)
図面名	施工計画図(その1)
縮尺	1:1000 図面番号 17 / 20
会社名	
事業者名	徳島県東部県土整備局<吉野川>

施工計画図(その2) S=1:50
足場設置計画図(断面図)

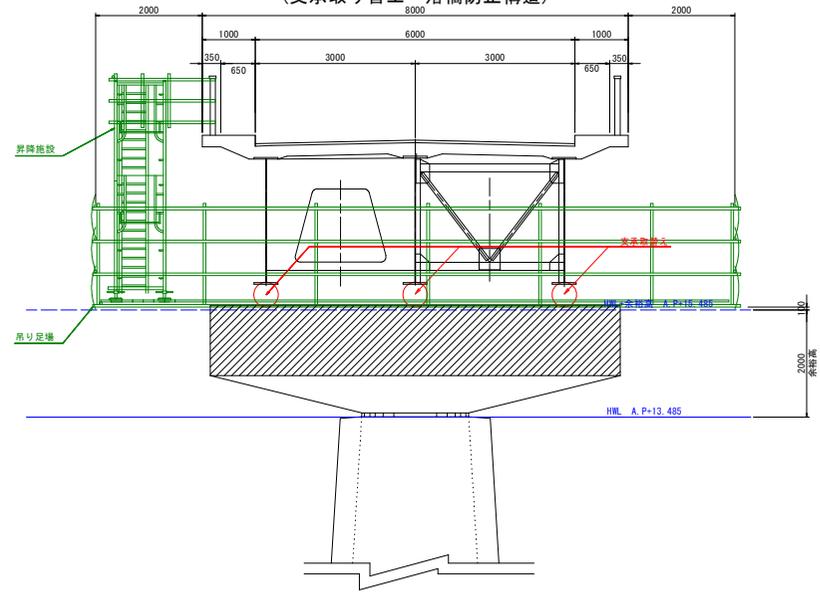
【非出水期】

【出水期】

橋脚周り足場
(橋脚梁補強時)



橋脚周り足場
(支承取り替工・落橋防止構造)

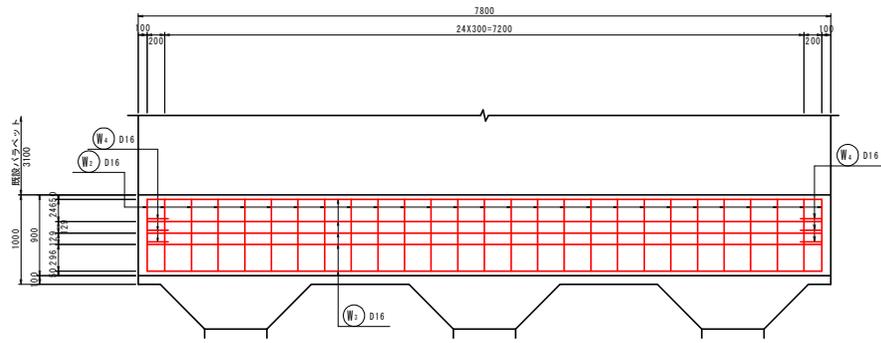


実施設計図面

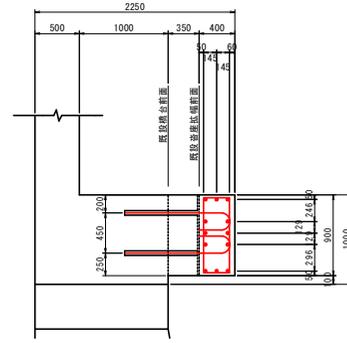
工事名	R3富士 石井引田線(六条大橋) 上線・下六條 橋梁補修工事(S) (旧い手続係)		
路線名等	(主)石井引田線		
工事箇所	板野郡上板町下六條(六条大橋) (第5分劃)		
図面名	施工計画図(その2)		
縮尺	1:50	図面番号	18 / 20
会社名			
事業者名	徳島県東部県土整備局<吉野川>		

A1橋台沓座拡幅配筋図

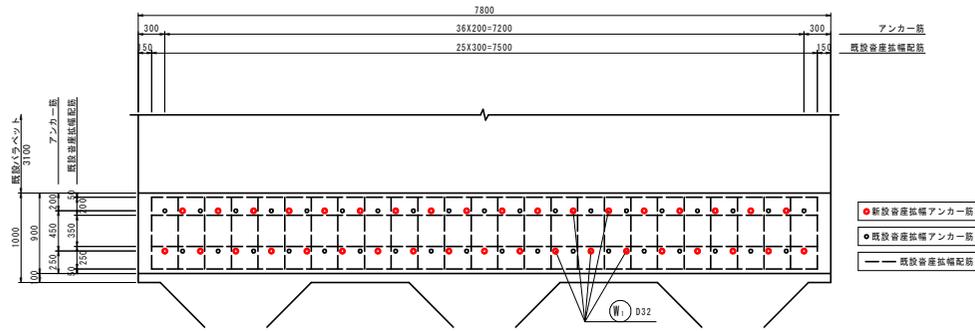
S=1:30



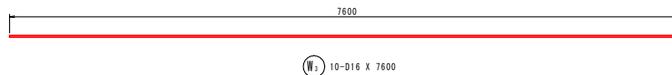
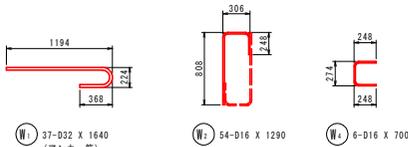
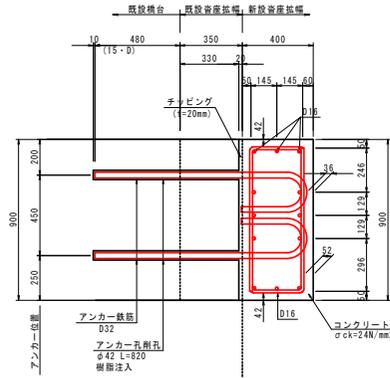
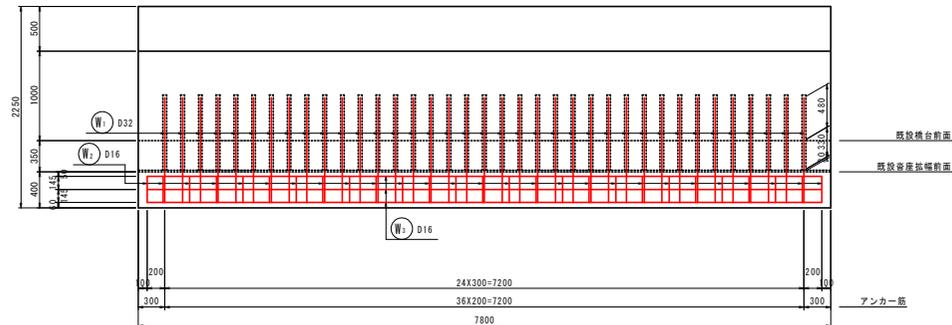
2-2
(アンカー削孔位置)



かぶり詳細図 S=1:15



3-3
(平面図)



鉄筋質量表 (SD345)

種別	径	長さ	本数	単位質量	一本当り質量	質量	概要
W1	D32	1640	37	6.23	10.22	378	U
W2	D16	1290	54	1.56	2.01	109	P
W3	D16	7600	10	1.56	11.86	119	—
W4	D16	700	6	1.56	1.09	7	C
						613	
合計 D32				378 kg			
D16				235 kg			
総質量				613 kg			

注記)

- ※コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$ とする。
- ※施工に先立ち現場実測を行い指針決定を行うこと。
- ※既設コンクリートへの削孔の際は鉄筋探索を実施して既設鉄筋を切断しないように十分注意すること。
- ※アンカー筋の定着は既設橋台面より15・D以上確保すること。
- ※コンクリート打設後、十分な養生を行うこと。
- ※φの削孔径は、鉄筋径+10mm程度とする。

実施設計図面

工事名	R3富士 石井引田線(六条大橋) 上級・下六條 橋梁補修工事(S) (旧い手続後記)
路線名等	石井引田線
工事箇所	板野郡上板町下六條(六条大橋) (第5分割)
図面名	A1橋台沓座拡幅配筋図
縮尺	1:30 図面番号 20 / 20
会社名	
事業者名	徳島県東部県土整備局<吉野川>